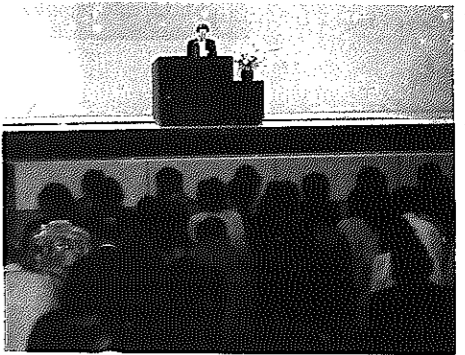




身近な情報をお寄せください
(白根市役所企画財政課広報広聴係
☎373-2111)

地域の安全、家庭で支えて30年

交通安全会母の会30周年記念式典



白根市交通安全会母の会が創立三十周年を迎え、記念式典がカルチャーセンターで開催されました。式典では渡辺キヨ同会長があいさつ。「交通安全は家庭から合言葉に発足して三十年がたちました。これからも交通安全の輪を家庭から地域へと精いっぱい広げていきたいと思えます」と力強く述べました。

その後、活動に貢献した個人や団体を表彰。創立以来二十七年間にわたって会長を務められた高橋末江さんほか、各地区母の会に感謝状が手渡され、集まった約五百人の観衆から温かい拍手が送られていました。

巡回指導で個別に経営を指導

認定農業者経営指導研修会



農業を取り巻く環境が厳しい中、より良い農業経営を実現するために「農業経営指導分析会」が十月から行われています。

これは、個別に経営改善指導を希望する認定農業者を対象に、市農業経営改善支援センターが企画した新しい取り組み。七月に実施した経営改善研修会で、個別指導を希望した法人・個人の七人が参加しています。

研修は二月まで行われる予定。市場調査や財務分析などの講義が五回。そのほか、中小企業診断士の武藤勝行さんが個別に農家を巡回し、経営状態をチェックするといきまめ細かい指導も行われます。

ストロップのできるまで

大鷲小学校ダイニチ工業見学



十月九日、大鷲小学校の五年生が、社会科の授業の一環で、ダイニチ工業株式会社を訪れ、ストロップの製造工程を見学しました。

同社では、十数年前から毎年、社会貢献事業の一つとして工場を開放。小学生の見学案内を行っています。

子供たちは、プレス加工から塗装、梱包までの過程を見学。メモを取りながら工場内を回り、質問の時間には、たくさんのお兄さんが元気に質問していました。

日常生活の中の障壁を体験

福祉のまちづくり車いす体験



障害者の立場になって道路や公園、建物の中にある障壁を体験してもらおうという「車いす・アイマスク体験」が十月二十六日に行われました。

これは、今年度策定中の「白根市福祉のまちづくり推進計画」に生かそうと市福祉事務所が企画したもの。同計画策定委員や中学生ボランティアなど十五人が、三人一組になって、それぞれコース別に分かれ、車いすです市内を巡りました。回ってみると、歩道と車道

に段差があったり、歩道が斜めだったりする所が市内のあちこちに。「普段歩いていて気にならない段差でも、車いすだとずいぶん大変なことが分かりますね」と実感し、コースをチェックしていました。

その後、目隠しをして市役所の階段の登り降り体験。「目隠しした状態では、介助者と一緒でなければ不安で歩けない」と、おそろおそろ足を踏み出していました。

日常生活の中にも、さまざまな障壁があることを体験した参加者の中には「今後、道路や施設を造るときに障害者に配慮して」という要望も出されていました。

6工区設計協議へ、7工区幅杭完了

国道8号白根バイパス進捗よく状況



幅杭を設置、用地測量へに入った7工区

七工区では、戸頭の一部を除いて設計協議と幅杭設置が完了（写真上）。建設省では用地測量に入りました。順調に進めば今年中に測量を終え、三月末までには一部用地の買取に入る予定です。

一方、進捗よく遅れていた六工区でも、一部を除いて地質調査と路線測量を完了。地元との設計協議に入りました。

今年夏に発足した六工区事業対策協議会（長井祐二郎会長）は十月十六日、古川地域コミュニティセンターで建設省側を迎えての地元説明会を開催。新潟国道工事事務所職員が、バイパスと国道4



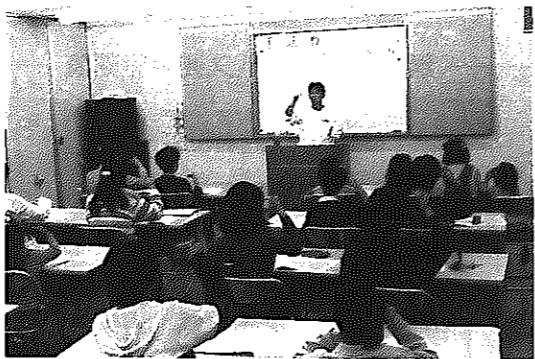
6工区地元説明会

60号・市道須藤小路線との交差を立体型としたこと、それに伴う取付道路の位置など全体の構成案を図面を使って提示。住民からは「遮音壁などを設置して騒音を防ぐ工夫をしてほしい」といった要望が出されていました。

六工区では今後、設計協議を終えしだい、幅杭の設置、用地測量へと入っていく予定です。

手話で広がるコミュニケーションの輪

白根郵便局手話教室

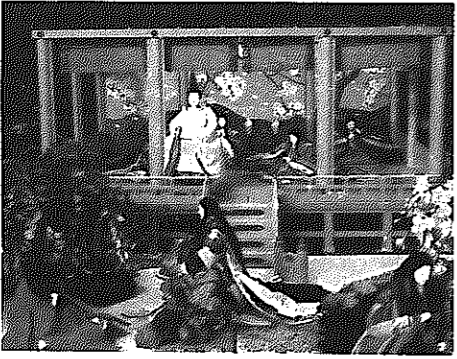


十月の毎週火曜日、白根郵便局で手話教室が開かれました。配達区域の住民を対象にした同局主催の手話教室は、今回が初めて。親子など約二十人が参加しました。

「指を動かすだけでなく、表情をつけて」という講師の指導に、最初は恥ずかしそうにしていた参加者も、回を重ねることにうまくなっていきます。指で五十音を表現する「指文字」から始めて、最終回までには簡単な日常会話までを習得。ある参加者は「覚えた手話がどこかで役立てられれば」と話していました。

平安王朝の装束を再現

源氏物語の四季展



間口六メートル、奥行き二メートルの四つの人形舞台上に、源氏物語の春夏秋冬を描いた「源氏物語の四季展」が、十月十七日から三日間、文化催事として市内の創作具服ギャラリー泉三で開かれました。

人形の衣装は、平安朝色彩研究家の河田満智子さんが配色記録書に基づいて当時そのままに再現したもの。訪れた人は「千年以上前から、四季の移ろい色を装束に取り入れる感性に感動します」と舞台上に見入っていました。

安くていい物を探せ

「楽市」フリーマーケット



十月二十六日、青年教育センターで「楽市」フリーマーケットインシロねが行われました。この催しも今年で四年目を迎え、すっかり定着。掘り出し物を見つけようと市内外から大勢の人が詰め掛けました。

会場には、冬物のセーターや子供服、中古CD、マンガ本などがいっぱい。少しでも安くていい物を見つけようと、訪れた人たちは品物を手に取り、じっくりと見て回っていました。